

診断書 (精神障害者保健福祉手帳用)

氏名	明治・大正・昭和・平成 年 月 日生 (歳)		
住所			
1 病名 (右の病名と対応するICDコードをF00～F99、G40のように3桁で記載。F1, F06疾患はなるべく4桁で記載。)	(1) 主たる精神障害 ICD10コード	F又はG (数字)	
	(2) 従たる精神障害 ICD10コード		
	(3) 身体合併症	身体障害者手帳 (有・無、種別 級)	
2 初診年月日	主たる精神障害の初診年月日	昭和・平成	年 月 日
	診断書作成医療機関の初診年月日	昭和・平成	年 月 日
3 発病から現在までの病歴及び治療の経過、内容 (推定発病年月、発病状況、初発症状、治療の経過、治療内容などを記載する。)	(推定発病時期 年 月頃)		
	*器質性精神障害 (認知症を除く) の場合、発症の原因となった疾患名とその発症日 (疾患名 年 月 日)		
4 現在の病状、状態像等 (該当する項目を○で囲む)			
(1) 抑鬱状態	ア 思考・運動抑制 イ 易刺激性、興奮 ウ 憂鬱気分 エ その他 ()		
(2) そう状態	ア 行為心迫 イ 多弁 ウ 感情高揚・易刺激性 エ その他 ()		
(3) 幻覚妄想状態	ア 幻覚 イ 妄想 ウ その他 ()		
(4) 精神運動興奮及び昏迷の状態	ア 興奮 イ 昏迷 ウ 拒絶 エ その他 ()		
(5) 統合失調症等残遺状態	ア 自閉 イ 感情平板化 ウ 意欲の減退 エ その他 ()		
(6) 情動及び行動の障害	ア 爆発性 イ 暴力・衝動行為 ウ 多動 エ 食行動の異常 オ チック・汚言 カ その他 ()		
(7) 不安及び不穏	ア 強度の不安・恐怖感 イ 強迫体験 ウ 心的外傷に関連する症状 エ 解離・転換症状 オ その他 ()		
(8) てんかん発作等 (けいれんおよび意識障害)	ア てんかん発作 発作型 () 頻度 () 最終発作 (年 月 日) イ 意識障害 ウ その他 ()		
(9) 精神作用物質の乱用及び依存等	ア アルコール イ 覚醒剤 ウ 有機溶剤 エ その他 () ① 乱用 ② 依存 ③ 残遺性・遅発性精神病性障害 (状態像を該当項目に再掲すること) ④ その他 () 現在の精神作用物質の使用 有・無 (不使用の場合、その期間 年 月 から)		
(10) 知能・記憶・学習・注意の障害	ア 知的障害 (精神遅滞) ① 軽度 ② 中等度 ③ 重度 療育手帳 (有・無、等級等) イ 認知症 ウ その他の記憶障害 () エ 学習の困難 ① 読み ② 書き ③ 算数 ④ その他 () オ 遂行機能障害 カ 注意障害 キ その他 ()		
(11) 広汎性発達障害関連症状	ア 相互的な社会関係の質的障害 イ コミュニケーションのパターンにおける質的障害 ウ 限定した常同的で反復的な関心と活動 エ その他 ()		
(12) その他 ()			
5 4の病状・状態像等の具体的程度、症状、検査所見 等	検査所見：検査名、検査結果、検査時期		

6 生活能力の状態 (保護的環境ではない場合を想定して判断する。児童では年齢相応の能力と比較の上で判断する)			
(1) 現在の生活環境	<input type="checkbox"/> 入院 <input type="checkbox"/> 入所 (施設名) <input type="checkbox"/> 在宅 (ア 単身・イ 家族等と同居) <input type="checkbox"/> その他 ()		
(2) 日常生活能力の判定 (該当するものを○で囲む)	ア 適切な食事摂取 自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない イ 身の清潔保持、規則正しい生活 自発的にできる ・ 自発的にできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない ウ 金銭管理と買物 適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない エ 通院と服薬 (要・不要) 適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない オ 他人との意思伝達・対人関係 適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない カ 身の安全保持・危機対応 適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない キ 社会的手続や公共施設の利用 適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない ク 趣味・娯楽への関心、文化的社会的活動への参加 適切にできる ・ おおむねできるが援助が必要 ・ 援助があればできる ・ できない		
(3) 日常生活能力の程度 (該当する番号を選んで、どれか一つを○で囲む)	ア 精神障害を認めるが、日常生活及び社会生活は普通にできる。 イ 精神障害を認め、日常生活又は社会生活に一定の制限を受ける。 ウ 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、時に応じて援助を必要とする。 エ 精神障害を認め、日常生活に著しい制限を受けており、常時援助を必要とする。 オ 精神障害を認め、身の回りのことはほとんどできない。		
7 6の具体的程度、状態等 (就労・就学・家庭生活の状況等)			
8 現在の障害福祉等のサービスの利用状況	<input type="checkbox"/> 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 (平成十七年法律第二百二十三号) に規定する自立訓練 (生活訓練) <input type="checkbox"/> 共同生活援助 (グループホーム) <input type="checkbox"/> 訪問指導 <input type="checkbox"/> 居宅介護 (ホームヘルプ) <input type="checkbox"/> その他の障害福祉サービス () <input type="checkbox"/> 生活保護		
9 備考	自立支援医療費 (精神通院) 同時申請の場合は、以下についても記入してください。 1 現在の治療内容 (1) 投薬の有無 (有・無) 内容 { } (2) 精神療法の有無 (有・無) 内容 { } (3) 訪問看護指示の有無 (有・無) (4) 他医療機関への通院の有無 (有・無) → 「有」の場合 医療機関名 _____ 内容 <input type="checkbox"/> デイケア <input type="checkbox"/> カウンセリング <input type="checkbox"/> その他 () 2 今後の治療方針 { } 3 重度かつ継続 <input type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 (重度かつ継続の要件は裏面を参照) 上記のとおり、診断します。 平成 年 月 日 医療機関の名称 _____ 医療機関所在地 _____ 電話番号 _____ 診療担当科名 _____ 医師氏名 (自署又は記名押印) _____ ※自立支援医療費 (精神通院) 同時申請で、「3 重度かつ継続」該当かつ主たる精神障害がF40～F99の場合は医師の略歴を (精神医療に3年以上従事した経験を有することがわかるように) 記載すること <input type="checkbox"/> 精神保健指定医 <input type="checkbox"/> 精神保健指定医ではない (下記に精神医療従事歴を記載) 精神科： 年 月 日～ 年 月 日勤務 その他： 年 月 日～ 年 月 日勤務 主に診察した疾患名 ()		
※手帳判定	1	2	3 非該当